



国際公共経済学会 第 33 回研究大会プログラム

平成 30 年 12 月 8 日(土)・9 日(日)

会場 兵 庫 大 学

大会テーマ：平成 30 年を振り返る

平成の時代が終わる。平成元年に戦後、日本経済の頂点を極めた後の衰退の 30 年間であり、さらにベルリンの壁崩壊から朝鮮半島分断の終わりを迎える今日まで、戦後秩序の要たる冷戦の終結に至る移行期間であった。平成はその意味と異なり、戦後に慣れ親しんだ秩序の変化と秩序に寄り添った繁栄が終わる時代であった。

さて、国際公共経済との立場で、日本の平成を振り返るならば、公共の役割の変化の時代であった。グローバル化への動きと知識基盤社会の到来について対応の遅れた財政は、平成になり悪化の一途を辿る。その間、1980 年からの新自由主義思想に基づき、公共サービスの提供を市場に委ねる民营化、政策決定に競争を重視した公共経営論などが広がり、施行された一方で、平成 7 年に発生した阪神・淡路大震災を契機として重要視された社会的経済分野が存在感を増し、公共の果たすべき役割の一部を成し、これは平成 12 年の「21 世紀日本の構想」懇談会がまとめた 21 世紀における公のイメージともなるとともに、現在では寄附や税制を通し市場と政府との新たな協働を有するに至る。

世界に目を転じる。平成の初期、1990 年代はグローバル化の加速する時代であり、ひと、もの、かねの自由な動きを背景とする NAFTA(北米自由貿易圏)や EU(欧州連合)の成立、天安門事件後の中国の改革開放があり、インターネットの公開によって大規模な情報が瞬時に世界を駆け巡るようになった。伴うビジネスチャンスは日本を除く先進国の成長とともに、新興国の勃興をもたらしたのであるが、同時に貧富の格差の拡大と移民と不寛容の問題をも引き起こしている。解決にあたって、一国の、あるいは多国間の連携の下での公的部門の役割の再認識、グローバル化における社会的経済の存在の重要性が知られるようになっている。

内外を問わず平成の 30 年を振り返り、新しい時代の公共のあり方を考える機会としたい。

第 33 回研究大会実行委員長 田端 和彦(兵庫大学 副学長)

国際公共経済学会事務局 ■<http://ciriec.com> ■japan@ciriec.com
■名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号 名古屋学院大学商学部伊藤昭浩研究室内

プログラム

■第1日目 平成30年12月8日(土)

時刻	内 容	
9:30	受 付	
10:00	5号館 301 教室	5号館 302 教室
	奨励賞報告① 審査委員 楠田 昭二 (早稲田大学) 山田 航 (名古屋学院大学)	奨励賞報告② 審査委員 森 由美子 (東海大学) 穴山 悌三 (東京電力株)
	高松 宏弥 (東京工業大学院) 東京圏における新興エスニック・コミュニティの形成と展開に関する研究—「団地」を中心とした外国人集住地域を対象に—	青山 光彦 (京都大学院) 自治体主導の再生可能エネルギー導入事業と地域への効果に関する研究～原発による地域経済との対比を見据えて～
	劉 源 (中央大学院) 中国における社会的企業の役割と可能性—Shokay の事例を中心に—	任 立新 (大東文化大学院) 内モンゴルにおける酪農の再編と経営実態分析
(終了予定) 12:15		
12:15	2号館 204 教室	2号館 206 教室
	理事会	奨励賞 審査委員会
昼 食		
13:30	5号館 301 教室	
	パネルディスカッション① 【一般公開】 社会的弱者を支える新たなモビリティ	
(終了予定) 15:30	モデレーター 野村 宗訓 (関西学院大学経済学部 教授)	
	パネラー 高橋 愛典 (近畿大学経営学部商学科 教授) 小熊 仁 (高崎経済大学地域政策学部観光政策学科 准教授) 西藤 真一 (島根県立大学総合政策学部総合政策学科 准教授)	
15:45	パネルディスカッション② 〈次世代研究委員会〉【一般公開】 イノベーションと新たなプラットフォーム	
	モデレーター 西田 亮介 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授)	
(終了予定) 17:30	パネラー 藤井 大輔 (東京交通短期大学運輸科 准教授) 水谷 瑛嗣郎 (帝京大学法学部政治学科 助教) 河嶋 春菜 (名古屋大学国際機構国際教育交流センター 特任助教) 菊地 映輝 (慶應義塾大学SFC 研究所上席所員)	
18:00	5号館 2 階	
	懇 親 会	

※パネルディスカッション①②④の詳細は4ページに掲載しています。

【一般公開】次代の「参画と協働」をめざす基盤に関するパネルディスカッション

社会的弱者を支える新たなモビリティ

日時	平成 30 年 12 月 8 日(土) 13:30~15:30	会場	兵庫大学 5 号館 301 教室
趣 旨			
<p>交通とは、人々に目的があつてはじめて生まれる移動ニーズに対応するための手段である。多種多様なニーズが生まれるがゆえに、特定地域で交通に対するニーズを満たす必要がある。つまり、ローカルな地域交通と都市間輸送は、それらの目的や規模は明らかに異なるが、地域コミュニティや地方経済を支える上で重要なツールだという点は共通している。</p> <p>交通をめぐる環境は、この 30 年で劇的に変化した。いうまでもなく規制改革は事業者のみならず地域にも大きな影響を与えた。それ以外にも、人口減少、とりわけ地方における過疎化も無視できないほど大きなインパクトを与えてきた。他方、ICT 技術の進展により、交通とはかかわりのなかつた情報通信産業との融合化もみられるようになり、将来の交通はますます異なる形態になると考えられる。</p> <p>30 年という時間が経過し、交通を支えるアクターも従来とは様変わりした。今後、人口減少、高齢化、技術革新が更に進む中で、それぞれのアクターに何を期待できるか。また、地域において交通をインフラとして効果的に機能させるためにはどのような点に留意すべきなのか。このパネルディスカッションでは、地域を支える交通の制度設計のあり方について焦点をあてることにする。</p>			
モデレーター	野村 宗訓(関西学院大学 経済学部 教授)		
パネラー	高橋 愛典(近畿大学 経営学部 商学科 教授) 小熊 仁(高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科 准教授) 西藤 真一(島根県立大学総合政策学部 総合政策学科 准教授)		

イノベーションと新たなプラットフォーム

日時	平成 30 年 12 月 8 日(土) 15:45~17:30	会場	兵庫大学 5 号館 301 教室
趣 旨			
<p>様々な分野において「プラットフォーム」に対する関心が高まっている。情報化は平成のキーとなるが、情報化の進展に伴って発展を遂げ、国境にとらわれない IT プラットフォームが広く普及し、ビジネスモデルや規制形態、情報環境等が大きく変容した/変容せざるをえない事態に直面したことに起因する。それぞれの分野において、今も新しい概念と手法が試行錯誤され続けているが、現在ではプラットフォーム概念は拡張され、第三者の協働や共創によるイノベーションを創出する基盤として捉えられるようになった。またクラウドファンディングやオープンガバメントなど公共分野においても、看過できない存在になろうとしている。</p> <p>本パネルディスカッションでは、情報法をはじめ都市、交通などプラットフォームを研究対象とする多様な研究者が集い、イノベーションの源泉として、同時に新しい公共を支える基盤として、利活用可能性と学術的含意を学際的に議論する。</p>			
モデレーター	西田 亮介(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授)		
パネラー	藤井 大輔(東京交通短期大学 運輸科 准教授) 水谷 瑛嗣郎(帝京大学法学部政治学科 助教) 河嶋 春菜(名古屋大学 国際機構国際教育交流センター 特任助教) 菊地 映輝(慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員)		

ソーシャル・エコミーにおける新たな資金の動き

日時	平成 30 年 12 月 9 日(日) 13:30~15:00	会場	兵庫大学 5 号館 301 教室
趣 旨			
<p>このセッションでは、社会経済分野における平成の 30 年を振り返りつつ、社会経済のネクストステージを考える上で重要な課題である「資金調達」に着目したい。社会経済の分野は、阪神・淡路大震災を経験し、1998 年に NPO 法が施行されて以降、「公=官(政府)」という時代から、現在は政府のみならず、非営利組織、コミュニティ、市場、そして市民(個人)と誰もが「公」に関与する時代(新たな公共)となつてきている。特に、新たな公共を担う代表格である非営利組織に目を向ければ、活動を支える上での財源の確保は最重要課題である。また、近年では、補助金や助成金、委託事業などの資金源に依存するだけでなく、寄付を集める仕組みの構築、ソーシャル・ビジネスによる事業での収入、(協同組合等の組織であれば)増資を求めることによって、自主財源の確保を目指すという新たな資金調達の動きが求められている。</p> <p>本セッションでは、こうした「社会経済における新しい資金調達の動き」について、日本、カナダ、アジアの動向や事例を踏まえながら、学会員とともに議論を深めていければと考えている。</p>			
モデレーター	金子 勝規(大阪市立大学大学院経済学研究科 准教授)		
パネラー	Kommaly (Ang) THOUMPHAVANH(Ministry of Planning and Investment, Investment Promotion Department, Laos) 平尾 昌也(関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科 助教) 柴田 学(金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 准教授) 岡野 聡子(奈良学園大学人間教育学部人間教育学科 准教授)		

※これらのパネルディスカッションは「県政 150 周年記念県民連携事業」(兵庫県)の助成を得て実施します。

会場のご案内

兵庫大学：兵庫県加古川市平岡町新在家 2301

①兵庫大学までの経路

- 最寄駅：JR 神戸線 東加古川駅 ※西明石駅、姫路駅から普通電車で約 15 分
- 東加古川駅からの経路：タクシーで 5 分。スクールバスで 7 分
- 自家用車の場合：加古川バイパス加古川東ランプ下車、6 分

②スクールバス運行(予定)

12月8日(土)

時間帯	大学発	東加古川駅発
9時台	00 10 30 50	00 10 20 30 40 55
10時台	10 20 30 50	00 20 30 40
11時台	50	00
12時台	10 20 30 40 50	00 20 30 40 50
13時台	00 10 20 30 50	00 10 20 30 40
14時台	10 20 30 50	00 20 30 40
15時台	10 30 50	00 20 40
16時台	シャトル運行	シャトル運行
17時台	10 シャトル運行	20 シャトル運行
18時台	シャトル運行 40	シャトル運行 50
19時台	10 20 30 40	20 30 50
20時台	00 10 20 40	20 50

12月9日(日)

時間帯	大学発	東加古川駅発
9時台	00 20 40	10 30 50
10時台	00	10
12時台	00 20 40	10 30 50
13時台	00 20 40	10 30 50
15時台	10 30 50	00 20 40
16時台	10 30	00 20

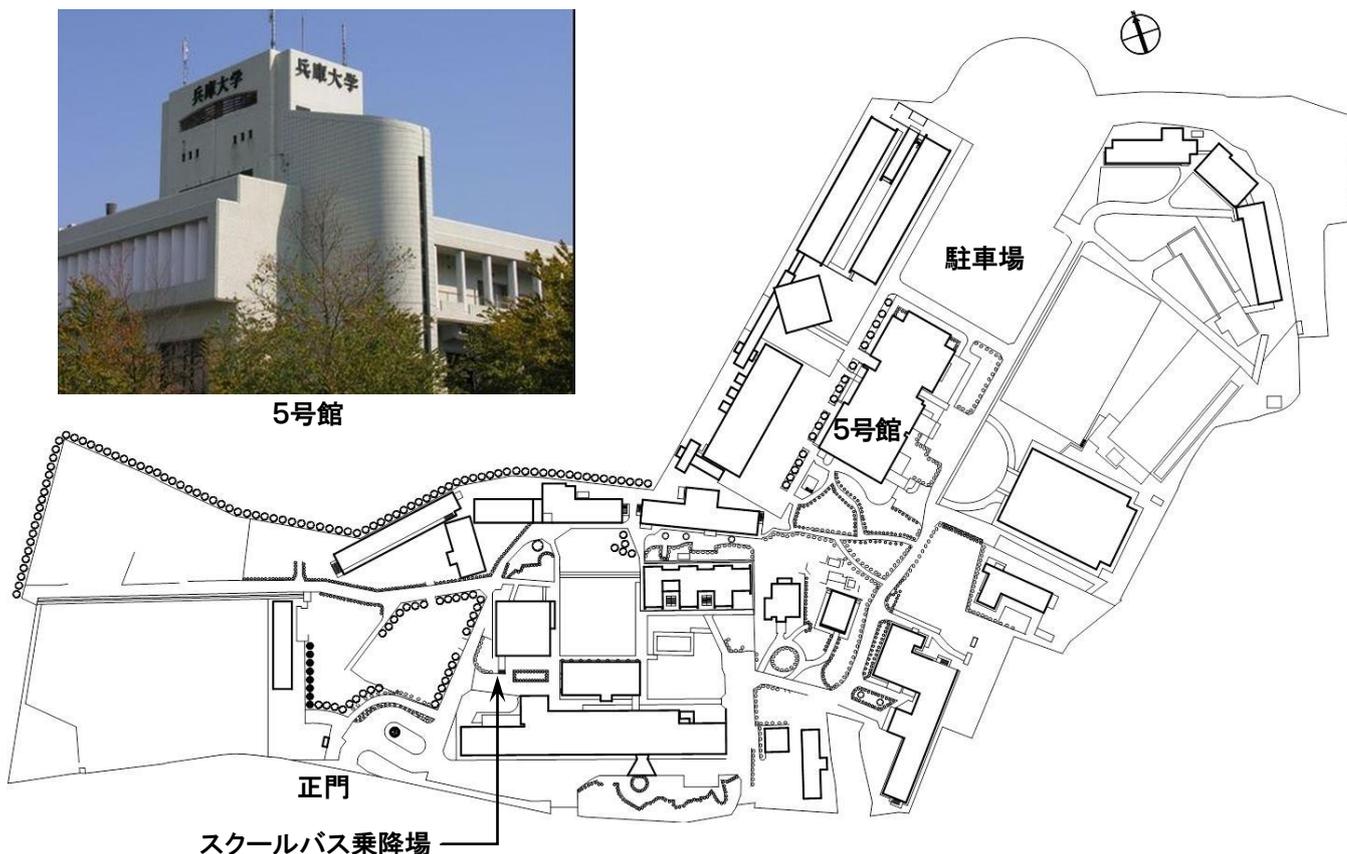
※スクールバスは無料です。ご乗車の際、国際公共経済学会参加者であることを運転手にお知らせください。
 ※スクールバスには学生、一般の方も乗車されます。

②研究大会会場

- 主会場：兵庫大学 5号館 3階 ※受付は 3 階ロビーにございます。
- 懇親会会場：兵庫大学 5号館 2階



5号館



正門

スクールバス乗降場